



第174号

発行所 一般社団法人 芝蘭会 京都大学医学部同窓会

〒606-8315 京都市左京区吉田近衛町 TEL 075-751-2713 FAX 075-752-4015

E-mail: info@shirankai.or.jp http://www.shirankai.or.jp

主 な 内 容

- ② 退任あいさつ・新任あいさつ
③ 校友会・KMS・FUNDだより
④ ホストファミリー募集
⑤ 支部だより 島根
⑥ 支部だより 神戸・東京・和歌山
新名簿づくりに協力を
人事異動・会員計報

京大病院臨床懇話会

「消化器がん医療」活発議論

学内外から116人参加

平成24年3月18日、「平成23年度京大病院臨床懇話会」が芝蘭会館で開催され、学内外から116名の参加がありました。同懇話会は、地域医療との連携を推進するため、地域で活躍されている医師などの先生方と京大病院診療科長らとの意見交換および京大病院からの情報提供の場として開催しているものであり、今回で15回目となります。



あいさつする三嶋病院長

当日は、三嶋理晃病院長および芝蘭会副会長の西医院・西祥太郎院長のあいさつのもと、新任の小西靖彦教授(大学院医学研究科附属医学教育推進センター)、柳田素子教授(腎臓内科)からそれぞれあいさつ・講演があり、続いて、平家俊男教授(iPS細胞臨床開発部長/小児科)から「iPS細胞臨床開発部の開設について」として病院報告がありました。その後、「京大病院における消化器がん医療の現状と展望」という全体テーマにより、坂口循環器内科医院・坂口佳司院長の座長のもと、岡部寛准教授(消化管外科)から「外科治療の現状と展望」、武藤学准教授(入院がん診療部/消化器内科)から「内視鏡治療の現状と展望」についてそれぞれ講演があり、続いて、日本パプテスト病院・北堅吉病院長の座長のもと、金井雅史特定講師(外来化学療法部/臨床腫瘍薬理学講座)から「外来化学療法法の現状と展望」について、林晶子特定准教授(外来がん診療部/集学的がん診療学



活発な議論を展開する全体討論

特定准教授(外来がん診療部)から「緩和医療の

現状と成果を報告

京大病院 iPS細胞・再生医学研究会

2月3日(金)に、京大病院 iPS細胞・再生医学研究会を芝蘭会館にて開催しました。同研究会は、当院における iPS細胞、ES細胞および体性幹細胞等を用いた再生医学研究の向上並びに成果の普及を図り、ひいては医療の発展に貢献することを目的として平成21年11月に発足したものです。第5回目となる今回の研究会では、学内外



開会あいさつをする三嶋病院長



油谷先生による特別講演

から110名余りの参加がありました。研究会では、今回の当番世話人である千葉勉先生(京大病院消化器内科教授)が司会を務め、三嶋理晃病院長から開会あいさつが述べられた後、中西淳先生(武田薬品工業株式会社医薬研究本部生物研究所リサーチマネージャー)より「ヒトiPS細胞からインスリン産生細胞の分化誘導」について、妻木範行先生(京都大学 iPS細胞研究所増殖分化機構研究部門細胞誘導制御学分野教授)より「軟骨細胞分化制御と細胞リプログラミング」について、妹尾浩先生(京大病院消化器内科特定講師)より「腫瘍幹細胞特異的マーカー同定

の試み」について、川口義弥先生(京都大学 iPS細胞研究所臨床応用研究部門臓器形成誘導分野教授)より「Genetic Lineage tracingを用いた臓器形成・維持機構の解析」について一般講演が行われました。引き続き、油谷浩幸先生(東京大学先端科学技術研究センターゲノムサイエンス分野教授)より「エピゲノム解析の現状」について特別講演が行われました。講演終了後、平家俊男先生(iPS細胞臨床開発部長/京大病院小児科教授)より昨年12月1日に開設された iPS細胞臨床開発部の現状について報告があり、併せて、



議案を審議する評議員会・理事会

より利便性・品質の高い iPS細胞作成のためにより一層のご協力をいただきたい旨依頼がありました。会場内では質疑応答が活発に行われ、盛況のうち閉会となりました。なお、同研究会は、平成24年7月20日(金)に芝蘭会館にて第6回目の開催を予定しています。

事業計画、予算を承認

芝蘭会評議員会・理事会 宿泊施設ホテルカードシステム導入へ

平成24年3月24日(土)午後3時から芝蘭会館別館において芝蘭会評議員会および理事会が開催された。議案は、(1)平成24年度事業計画および収支予算について、(2)第2回芝蘭会代議員選挙の実施について、(3)芝蘭会会員名簿の作成について、(4)芝蘭会館別館宿泊施設の運営改善について、(5)その他について5件で、議案(1)については、山田事務局長および寺西産学情報交流部長より説明が行われ、審議の後、原案どおり承認された。議案(2)についても、山田事務局長から説明が行われ、審議の後、選挙スケジュールなど原案どおり承認された。議案(3)については、山田事務局長より芝蘭会会員名簿(第70回)の作成について説明が行われ、審議の結果、名簿内容の空欄の増加防止のため、調査用紙に頒布範

囲に制限がある旨の文言を付け加えるなどの提案があり、対策を施すことで異議なく承認された。議案(4)については、山田事務局長より説明が行われ、審議の結果、原案どおり、門限を廃止するため、ホテルカードシステムを導入することなど、審議の後、今後も引き続き

検討することとした。2件目は京大病院の入院患者の付添者用の宿泊施設として芝蘭会館別館の宿泊室を提供することについて、会長より提案があり、審議の結果、事務局にて原案を作成し、次回の評議員会、理事会にて審議することとした。3件目は芝蘭会東日本大震災支援募金について、会長から説明が行われ、審議の後、医学研究科の「東日本大震災基金」へ残金174・9万円を寄附すること、並びに募金を継続することが異議なく承認された。4件目は総会の開催について、会長より平成23年度下期の決算書並びに事業報告を審議するための総会を平成24年6月30日(土)に開催することが諮られ、異議なく承認された。議案の審議終了後、湊会長から「京都大学医学部教育研究支援基金(KMS・FUND)」の寄附申込状況の報告と大倉辰三郎氏(昭和10年卒)から遺産を医学部の苦学生に対する奨学金とする旨の寄附の申し出についての報告があり、了承された。

退任あいさつ

私は、平成24年3月末で京都大学教授(人間健康科学系専攻)を定年退職し、4月1日より、社会福祉法人宇治病院に名誉院長として赴任しました。

私は、昭和48年に京都大学医学部を卒業し、昭和51年に京都大学大学院医学研究科博士課程(循環器内科)に進学しました。昭和55年から昭和58年までは、米国ミズーリ大学ダルトン研究所研究員として、ライフワークである冠動脈血行循環研究の礎を築き、研鑽を積み重ねました。

医療人の相互理解と協力を

人間健康科学系専攻教授 藤田 正俊



部衛生技術学科教授に就任しました。その後、改組により平成15年に京都大学医学部保健学科検査技術科学専攻教授、さらに大学院設置により平成19年には医学研究科人間健康科学系専攻医療検査学分野教授に就任しました。

30年間の研究生活を振り返って、自分なりの研究に関する所感をまとめてみます。今後、世界に羽ばたく若い人への参考になれば幸いです。平成5年に着任した当初は、大講座制で循環器内科を専門とする教員は皆無であり、大学院生もおらず、まさに孤軍奮闘の状態でしたが、以下に述べるように京都大学のポテンシ

新任あいさつ

このたび、平成24年3月1日付をもちまして整形外科教授を拝命いたしました。松田秀一と申します。芝蘭会会員の先生方にごあいさつ申し上げます。

世界に通用する研究者育成

整形外科学教授 松田 秀一



本の整形外科の発展を牽引してきた教室であります。この素晴らしい歴史を持つ教室に私を教授として迎えていただき、京都大学の皆さまに深く感謝申し上げます。

医師業務支援、積極的に展開

附属病院薬剤部教授 松原 和夫



自己紹介に代えさせていたがたいと思います。私は昭和53年に本学薬学部を卒業し、島根県の日本海沖合に浮かぶ隠岐諸島にある日本一小さな保健所にほぼ1年間勤務しました。

一般社団法人芝蘭会代議員選任に関する規則により、平成24年度の代議員選挙を下記のとおり行います。

- 1、選任する代議員定数 110人
2、代議員の任期 選任時から平成26年度定時総会終了時まで
3、立候補及び推薦受付 平成24年4月9日(月)から平成24年4月13日(金)まで
4、代議員候補者名簿の公示 平成24年4月16日(月)から平成24年4月20日(金)まで
5、投票期間 平成24年4月23日(月)から平成24年5月2日(水)まで
6、投票場所 一般社団法人芝蘭会事務局
7、開票 平成24年5月7日(月)
8、当選者の公示 平成24年5月8日(火)

第2回 一般社団法人芝蘭会代議員選挙公示

4月23日から投票、5月7日開票

記

一般社団法人芝蘭会 代議員選挙管理委員会委員長 西祥太郎

京都大学医学部 校友会・教育研究支援基金 (KMS・FUND) だより

血液・腫瘍内科学 教授 高折晃史

新たなステップへ パンフレット大幅改訂

KMS-FUND委員長



本年度のKMS・FUND委員長に就任いたしました血液・腫瘍内科学の高折です。ひとことこ

し、早速多くの学生はその恩恵を受けているわけですが、これでKMS・FUNDの使命が終

ったわけでは決してありません。そこで本稿では、その際の議論をもとに今後のKMS・FUNDのあり方

について述べていきたいと思います。ご存じのように、本FUNDの設立趣意は、

京都大学医学部学生及び大学院生の教育・研究支援でありま

す。学生会館は、学習や課外活動の場を提供して

おりますが、この後のジムの整

備により健康増進にも役立つことと

現在、それ以外の大きな活動としての京都大学

医学部若手研究者優秀論文賞(KMYIA)表彰

による研究活動支援がござ

あいつつ申し上げます。KMS・FUND委員会は、本年1月より新たなメンバーに代わり(表1)、私が新委員長に選

出されました。その際、第1回のKMS・FUND委員会におきまして

は、今後のKMS・FUNDのあり方に関しまし

てかなり広範な議論がなされました。念願の学生会館が

昨年11月に竣工し、早速多くの学生はその恩恵を受けているわけ

ですが、これでKMS・FUNDの使命が終ったわけでは決して

ありません。そこで本稿では、その際の議論をもとに

今後のKMS・FUNDのあり方について述べてい

きたいと思います。ご存じのように、本FUNDの設立趣意は、

京都大学医学部学生及び大学院生の教育・研究支援でありま

す。学生会館は、学習や課外活動の場を提供して

おりますが、この後のジムの整備により健康増進にも

役立つことと現在、それ以外の大きな活動としての

京都大学医学部若手研究者優秀論文賞(KMYIA)表彰

による研究活動支援がござ

る。このように、現在、それ以外の大きな活動としての

京都大学医学部若手研究者優秀論文賞(KMYIA)表彰

による研究活動支援がござ

る。このように、現在、それ以外の大きな活動としての

京都大学医学部若手研究者優秀論文賞(KMYIA)表彰

(表1) KMS-FUND 委員会

顧問	内分泌代謝内科学	教授	一和史
委員長	血液・腫瘍内科学	教授	尾高折
	皮膚科学	教授	晃良樹
	大学院教育コースイニシアティブ	教授	久人
	高次脳形態学	教授	武嗣
	分子遺伝学	教授	隆司
	薬剤疫学	教授	浩司
	人間健康科学・臨床認知神経科学	教授	元三
	芝蘭会	教授	均
	医学研究科	事務局長	山田
		事務部長	加藤

京都大学医学部学生及び大学院生の教育・研究支援でありま

す。学生会館は、学習や課外活動の場を提供して

おりますが、この後のジムの整備により健康増進にも

役立つことと現在、それ以外の大きな活動としての

京都大学医学部若手研究者優秀論文賞(KMYIA)表彰

による研究活動支援がござ

る。このように、現在、それ以外の大きな活動としての

京都大学医学部若手研究者優秀論文賞(KMYIA)表彰

による研究活動支援がござ

る。このように、現在、それ以外の大きな活動としての

京都大学医学部校友会 総会・講演会

2012年9月29日(土曜日) 13:00 ~
会場 芝蘭会館本館(予定)

講演会
教育体制委員会委員長 渡邊 大 教授
医学教育推進センター長 小西 靖彦 教授
腎臓内科学 柳田 素子 教授

特別講演会 ゲスト講演者
京都大学教授・京都大学 iPS 細胞研究所所長
山中 伸弥 教授(写真)



参加申込み・お問い合わせ先
京都大学医学部 校友会事務局
TEL:075-761-2467
FAX:075-752-1528
※申込人数により会場変更の場合も有ります。

社会で活躍へ日々精進 先生方、保護者らに感謝



医学部卒業生 雅優

卒業式では、私たちのために盛大な祝賀会を開いていただきました。また、皆さまであたたかいお祝いの言葉をいただき、本当にありがとうございました。

晴れて卒業の日を迎えることができたわけですが、光陰矢のごとし、思い出の詰まった学生生活は、あつという間であったように思います。

1回生の4月、南部コ

ンパの風のような新歓に驚いたり、一泊セミナーで楽しく騒いだりしたのが、ついこの間のようにも感じます。

4回生秋ではマイコー

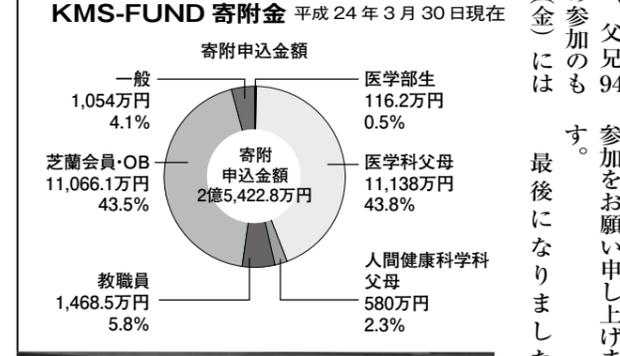


(図1) 京都大学医学部教育研究支援基金パンフレット

校友会総会・講演会は、例年の5月開催ではなく、本年度は秋の9月29日に開催予定です。学生・研修医教育に関する現状を、教育体制委員会委員長の渡邊大教授、医学教育推進センター長の小西靖彦教授にお話しいただき、新任の柳田素子

教授にもご講演いただく予定です。また、特別講演は京都大学iPS細胞研究所所長山中伸弥教授にお話ししていただきます。参加をよろしくお願い申し上げます。

最後に、これまで申し上げておりましたように、学生会館は決して完成しているわけではなく、エレベーターやジムの内装など、多くの未完成部分を



卒業生の門出を祝う卒業祝賀会

が、KMS・FUND寄附金にしましては、平成24年3月30日現在、寄附金申込人数は1427名、申込金額は2億5422.8万円(円グラフ)となりました。

皆さま方の厚いご支援に対し深く感謝申し上げます。

昨年度4月にご報告させていたいただいたの伸びは、この1年間で、人数にして約90名、金額にして約2400万円と人数・金額ともにやや伸び悩んでおり、皆さまのさらなるご支援のほど重ねてお願い申し上げます。

また、6回生ではマツチングや国家試験勉強にむけて勉強が増える中、先生方、父兄の方々、卒業生の方々のご寄附で建てていただいた、学生会館の24時間使える自習室を大変重宝しました。

おかげさまで、ここま

で来ることができたという

卒業式では、私たちのために盛大な祝賀会を開いていただきました。また、皆さまであたたかいお祝いの言葉をいただき、本当にありがとうございました。

晴れて卒業の日を迎えることができたわけですが、光陰矢のごとし、思い出の詰まった学生生活は、あつという間であったように思います。

1回生の4月、南部コ

ンパの風のような新歓に驚いたり、一泊セミナーで楽しく騒いだりしたのが、ついこの間のようにも感じます。

4回生秋ではマイコー

研修の外国人医学生のための ホストファミリー募集

京都在住の
会員対象

京都大学の医学生は、積極的に、夏休みや4年次の自主研修(マイコース)期間に海外で研修(基礎研究)していただきます。平成23年度は、26名の医学生が海外で1カ月以上研修しました。芝蘭会から助成金10万円を支持しています。最近、3年間海外研修の希望者が増加しています。その増加に対応して、平成24年度は新たに、インド Christian Medical College (CMC) とエジンバラ大学医学部と交流し、医学生を受け入れることになりました。平成24年度には京大の医学生をCMCに6-7名、エジンバラ大学医学部には1-2名を派遣予定です。このたび、CMCとエジンバラ大学医学部から1名ずつの医学生を平成24-25年に1-2カ月研修(実験)させることを依頼されました。来

日の時期が未だ確定していません。彼らをホームステイさせてくださるホストファミリーを募集します。家賃は、食事なしで1カ月5万円です。CMCおよびエジンバラ大学医学部ともに医療のレベルが非常に高く、彼らと京大との国際交流は、次世代の医学研究者を育成するうえで、たいへん意義が高いものです。このホームステイの

募集が、より多くの京大生に留学の機会を与えることを目的としたものであることをご理解いただき、皆さまからの応募をお待ち申し上げます。

**京都大学医学研究科
放射線遺伝学 教授
武田 俊一**
電話：075-753-4410
FAX：075-753-4419
マイコースのURL
<http://rg4.rg.med.kyoto-u.ac.jp/>

最先端の脳の話、興味深く



盛り上がった島根支部総会の出席者

支部だより

【島根】

平成23年12月3日(土)、ニューウェルシティー出雲にて平成23年度芝蘭会島根支部総会が開催されました。京都に住んでいると中国地方にはあまり馴染みがございませぬが、実際に足を運んでみると、島根は非常に空気のきれいな素敵な土地でした。

会は、島根大学医学部教授の山口修平先生司会の下で進行され、支部長である中川正久先生のごあいさつから始まり、中川先生は、主に、京都から島根へ赴任され

る医師の人数が段々減少してきている現状、そして、京大の卒業生、特に若い方の同窓会組織への参加率が低い現状を嘆いておられました。特に一点目のお話は最近よく耳にする地域医療の問題と関わっていることであると、深く考えさせられました。

その後、支部経過報告、会計報告と総会は進められ、続いて京都大学医学研究科附属脳機能総合研究センター教授である福山秀直先生による芝蘭会本部報告がありました。福山先生は、「医学部研

究科・医学部の現状」について話をされ、また、各業界リーダーを育成するための、全寮制のリーディング大学院についても言及されました。これからは、いわゆるゴッドハンドをもった医師だけでは機能せず、工学部などの科学技術との連携が必須になってくるともお話しされました。

そして、引き続き、福山先生による特別講演が行われ、演題は「Default Mode Network: 脳がなにもしていないこと」でした。Default Mode Network (DMN) とは、目的志向運動の際には鎮静化しているが、安静時には活発に活動している脳の領域のことです。この領域は、麻酔した動物の脳でも活発に活動しているらしいです。また、DMNはアルツハイマー病で早期に障害を受ける部位と類似していることから、なにもしていない状況にある脳が特定の疾患や精神状態と関連しているのではないかと考えられるようになったらしいです。さらに、自閉症、統合失調症での

症状発現にも、この領域が大きく関わっているらしいことが分かってきました。例えば、自閉症ではDMNの活動が障害され、統合失調症では過度に活動した状態にある、ということが解明されつつあります。

以上のことから、福山先生は、認知症の原因や意識というものは、DMNの機能に関連がある、とおっしゃっていました。このことは、活動中には働かないのに、安静時にこそ働く神経細胞が存在する、ということを示しており、私には非常に新鮮に感じられました。また、脳に関連して、福山先生は非常に興味深いこともおっしゃっていました。われわれは仕事や勉強、本を読んだり物事を考えたりする際、言葉や媒体にしています。つまり、日常生活では主に左脳を使うことが多いといえます。実は、MRIによると、万国共通でよく使う側の左脳の脳質の萎縮が大きいそうです。脳は使えば使うほど減ってしまうのである、だからこそ、われわれ

は脳を酷使せず、適度に休ませながら使用しなければならぬ、とおっしゃっていました。脳に関する最先端のお話は、私には魅力的なもので、もっと詳しく知りたいと思わせられるほど有意義でありました。

講演終了後には会場を移して懇親会が行われました。懇親会では出席された先生方の近況報告が行われました。趣味の話や、今後の抱負など、さまざまな話題が挙がり、会は非常に盛り上がりました。先生方は気さくな方ばかりでわれわれ雑誌部員にもお声をかけてくださり、失礼ながら軽い自己紹介や現在の京大医学部の状態などもお話しさせていただきました。そして宴もたけなわとなり、会は惜しまれながら最後になりましたが、このような貴重な会に参加する機会をいただいたことに感謝の意をもって、支部総会の報告を終わらせていただきます。(文責...2回生 赤埴未宝)

芝蘭会館がご利用いただけます

学会やシンポジウムへのご出席はじめ、同窓会などのお集まりや、京都観光のご宿泊に、芝蘭会館別館[国際交流会館]をご利用ください。

Shiran Kaikan Annex International Friendship Hall

古都の風情に彩られた空間でみなさまのお集り、ご宿泊をサポートさせていただきます。



会館ロビー



和室



ツインルーム



シングルルーム

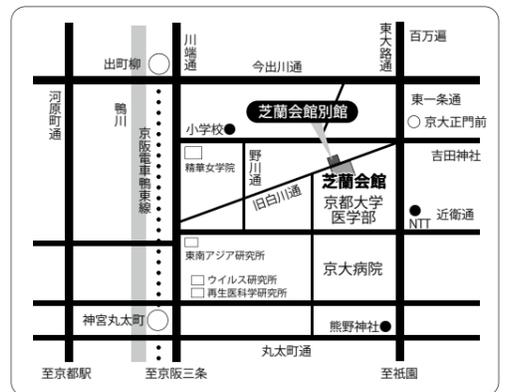


一般社団法人 芝蘭会 (しらんかい)

芝蘭会館別館

〒606-8302 京都市左京区吉田牛の宮町 11-1
Tel. 075-771-0958 Fax. 075-752-4015
E-mail: info@shirankai.or.jp http://www.shirankai.or.jp

レストラン [しらん] Tel. 075-752-1027



- 芝蘭会館別館へのアクセス
- 京都市から
 - D2乗場 市バス206系統「東山通北大路バスターミナル」行「京大正門前」下車徒歩2分
 - 地下鉄「国際会館」行「今出川」下車出口3番、市バス201系統「百万遍・祇園」行乗換「京大正門前」下車徒歩2分
 - 阪急河原町駅から
 - 出口6番 市バス201系統「百万遍・祇園」行、31系「統熊野・岩倉」行「京大正門前」下車徒歩2分
 - 京阪出町柳駅から 徒歩15分

客室ご利用料金 (税込)				
シングル (18室)	定員1	6,800円		
ツイン (3室)	定員2	12,700円 (シングルユース10,400円)		
●宿泊室(全室洋室)は、バス、トイレ、テレビ、冷蔵庫、インターネットジャック付きです。				
●芝蘭会会員(会費納付者)は宿泊利用料金を、1,000円割引させていただきます。				
●チェックインタイムは午後3時、チェックアウトタイムは午前10時となっております。				
●キャンセルについては、3日前より宿泊利用料金の半額を請求させていただきます。				
研修室・会議室ご利用料金 (税込)				
	ご利用時間	9:00~12:00	13:00~12:00	18:00~22:00
研修室1・2	定員60名	15,000円	18,400円	4,600円
会議室B1	定員20名	9,800円	11,500円	3,000円
和室1・2	定員10名	6,300円	8,000円	2,300円

支部だより

和やかな雰囲気の中、神戸支部
学術講演会の出席者ら

2教授の講演熱く

演題、腎臓病と精神医学



としては、腎臓病研究の推進と腎臓内科医育成が挙げられます。そもそも腎臓病は病態が不明であるため、まずそれを明らかにすることが画期的治療法発見のために不可欠であり、また腎臓内科の研究人口が少ないことも問題の一つであるそうです。医の力を結集し、一貫性のある研究、治療を行っていくことがわれわれの責務だと

おっしゃっていました。次の演題は京都大学医学研究科精神医学講座の村井俊哉先生による「精神医学の新しい展開——利己性・利他性の脳科学——」でした。まず精神科という専門について村井先生は、精神科へのニーズはどんどん多様化してきており、依存や自殺、広汎性発達障害、サイコパスなどといったものに関する専門的知識か

ら、社会的、哲学的問題に関する視点にいたるまで、さまざまなことが要求されるのだとおっしゃっていました。そこで今回は利己性・利他性というものに関して見てみようということで講演は進んで行きました。

人間はそもそも、食べ物、お金といった「報酬」を得ることを目的として生きており、これは生物の生存から考えると、社会的、哲学的問題に関する視点にいたるまで、さまざまなことが要求されるのだとおっしゃっていました。そこで今回は利己性・利他性というものに関して見てみようということで講演は進んで行きました。

このことの具体的な事象として村井先生は、独裁者ゲームというものを挙げられています。ある依頼主から引越しの荷物運搬のアルバイトを依頼されたとして、自分（一度だけ経験あり）ともう一人（未経験で面識なし）

の仕事をする事になり、自分一人だけで仕事を完了させようとする。しかし人は、誰かが見てくれるわけではなく、慈善行為をすることによって脳が喜びを感じるということが明らかになっているそうです。

このこと、自分の生存と関係が深い。自分一人だけで仕事を完了させようとする。しかし人は、誰かが見てくれるわけではなく、慈善行為をすることによって脳が喜びを感じるということが明らかになっているそうです。

その後、場所を移して懇親会が開かれ、和やかな雰囲気の中、先生方はわれわれ学生にも気さくに接してくださいました。大先輩の貴重なお話を伺うことができて非常に良かったです。懇親会には抽選などの催し物もあり、会には非常に盛り上がりがありました。そして宴もたけなわとなり、会は惜しまれつつもお開きとなりました。（文責：3回生 真辺諄）

【神戸】

平成24年2月11日(土)、神戸市中央区にある兵庫県医師会館にて、芝蘭会神戸支部学術講演会が行われました。今回は講師として京大から二人の教授がいらっしやっています。お二人とも非常に若く、会が始まる前にもわれわれ学生にまで声をかけてくださるなどのお気遣いまでしていただきました。



盛況だった東京支部総会の出席者ら

血管炎テーマ、活発質疑 ピアニストの深沢さん、演奏魅了

平成24年2月12日(土)午後4時より、東京都千代田区の学士会館において「平成23年度芝蘭会東京支部総会および第10回京都大学健康科学フォーラム」が開催されました。首都圏ということもあり、多くの医療機関や大学からさまざまな年齢層の先生方が参加され、広い会場が満席になるほどの盛況ぶりでした。

会は3部に分かれており、第1部は「総会兼理事会」、第2部は「第10回京都大学健康科学フォーラム」、第3部は懇親会という構成でした。

第1部の最後に、京都大学医学部附属病院副院長で肝胆脾・移植外科教授の上本伸二先生から、芝蘭会本部報告が行われました。近年は研究分野において産官学連携プロジェクトが増加し、また、先端医療機器開発・臨床研究センターやIPS細胞研究センターなどの施設が続々と竣工していることも明るい話題として伝えられました。

第2部の「健康科学フォーラム」では、聖マリアンナ医科大学医学部長で同附属病院リウマチ・膠原病・アレルギー内科教授の尾崎承一先生が「難治性血管炎——その最近の動向——」という演題で講演されました。血管炎は、大血管に発症するものから毛細血管に発症するものまで多岐にわたり、疫学的にも治療方針的にも非常にバラエーションに富んだ疾患です。かつてはマクロ解剖学的な分類・診断が行われていましたが、顕微鏡や分子生物学の進歩により、現在ではANA (anti-neutrophil cytoplasmic antibody; 抗好中球細胞質抗体) などの抗体の陰陽による診断も行われるようになってきました。

ANA C A関連血管炎では、早期全身性・広範囲全身性・重症・難治性のカテゴリー別に治療を行うことが推奨されています。難治性以外の3つのカテゴリーでは治療法のエビデンスレベル・推奨度も高く、効果的な治療が行われているように感じられます。

その後、記念写真の撮影をはさみ、会場を移して第3部の懇親会が開かれました。乾杯のごあいさつは満100歳を迎えられた日野原先生でした。「乾杯!」ではなく「ゴー!ゴー!」というユニークな音頭をとられ、序盤から非常に和やかかつ愉快な雰囲気の中で会は進みました。

眼底検査の変遷学ぶ

平成24年2月12日、日本赤十字社和歌山医療センターで芝蘭会和歌山支部総会および学術講演会が行われました。

腎臓病を治せる病気としては、吉尾先生のあいさつの後、講演へと移り、まず一つ目の演題は京都大学医学研究科腎臓内科学教授の柳田素子先生による「腎臓病を治せる病気にするために」でした。現在、腎不全を含め腎臓病にかかる人は8人に1人ともいわれており、その患者数は毎年1万人ずつ増えてきているそうです。中でも腎不全は、心血管疾患のリスク因子になるともいわれており、国民の健康、さらには国家経済にも大きなインパクトをもつということが出来ます。有効な治療としては血液透析が挙げられ、この技術はほぼ完成形に近づいたといえるそ

行中の医学研究と教育の各プロジェクトの紹介、および新病棟の建設計画と完成予定図などの説明がありました。続いて、同教授が、「眼底イメージングプロジェクト」という演題で講演をされました。内容をごく簡単にまとめますと、近代、現代、そして未来における、眼底検査の変遷について

の講演でした。眼底鏡の開発による眼底検査の誕生。眼底カメラや、OCTの開発、導入による眼底検査の進化と、眼底所

見に対する診断の変化。そして、さらなる進化を目指すべく、現在京都大

の弱さを憂いておられる。日本の医学研究は衰

いたって合理的なことです。しかし人は、誰かが見てくれるわけではなく、慈善行為をすることによって脳が喜びを感じるということが明らかになっているそうです。

で仕事をすることになり、自分一人だけで仕事を完了させようとする。しかし人は、誰かが見てくれるわけではなく、慈善行為をすることによって脳が喜びを感じるということが明らかになっているそうです。

その後、場所を移して懇親会が開かれ、和やかな雰囲気の中、先生方はわれわれ学生にも気さくに接してくださいました。大先輩の貴重なお話を伺うことができて非常に良かったです。懇親会には抽選などの催し物もあり、会には非常に盛り上がりがありました。そして宴もたけなわとなり、会は惜しまれつつもお開きとなりました。（文責：3回生 真辺諄）

その後、記念写真の撮影をはさみ、会場を移して第3部の懇親会が開かれました。乾杯のごあいさつは満100歳を迎えられた日野原先生でした。「乾杯!」ではなく「ゴー!ゴー!」というユニークな音頭をとられ、序盤から非常に和やかかつ愉快な雰囲気の中で会は進みました。



和歌山支部総会出席のメンバー

眼底検査の変遷について、近代、現代、そして未来における、眼底検査の変遷について、同教授が、「眼底イメージングプロジェクト」という演題で講演をされました。内容をごく簡単にまとめますと、近代、現代、そして未来における、眼底検査の変遷について

の講演でした。眼底鏡の開発による眼底検査の誕生。眼底カメラや、OCTの開発、導入による眼底検査の進化と、眼底所見に対する診断の変化。そして、さらなる進化を目指すべく、現在京都大

の弱さを憂いておられる。日本の医学研究は衰

いたって合理的なことです。しかし人は、誰かが見てくれるわけではなく、慈善行為をすることによって脳が喜びを感じるということが明らかになっているそうです。

で仕事をすることになり、自分一人だけで仕事を完了させようとする。しかし人は、誰かが見てくれるわけではなく、慈善行為をすることによって脳が喜びを感じるということが明らかになっているそうです。

その後、場所を移して懇親会が開かれ、和やかな雰囲気の中、先生方はわれわれ学生にも気さくに接してくださいました。大先輩の貴重なお話を伺うことができて非常に良かったです。懇親会には抽選などの催し物もあり、会には非常に盛り上がりがありました。そして宴もたけなわとなり、会は惜しまれつつもお開きとなりました。（文責：3回生 真辺諄）

芝蘭会会員名簿(70回・2012年版)の刊行について

会員登録の確認調査(7月送付予定)にご協力ください

拝啓 会員の皆さまには益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、本年は芝蘭会会員名簿の刊行の年にあたり、平成24年11月末の刊行に向けて編集作業を進めております。つきましては、今回、会員の皆さまのところへ「会員名簿調査確認書」(郵便はがき)及び、会員名簿購入申込用紙等をお送りさせていただきます。(7月送付予定)

会員名簿は、芝蘭会活動を活発化し、また、会員相互の親睦と交流を深めるためには、必要不可欠のものであり、名簿掲載内容の充実が求められます。それには、会員の皆さまのご支援、ご協力がぜひとも必要であります。

また、芝蘭会会員名簿の販売は芝蘭会員、賛助会員及び広告掲載企業に限らせていただいております。会員間

の交流を図るためにも余程のご事情がない限り名簿掲載にご協力いただき、前記「会員名簿調査確認書」を、必ず芝蘭会事務局へご返送くださいますよう、何卒よろしくご協力をお願いします。

敬具

平成24年4月

一般社団法人 芝蘭会
会長 湊 長博

芝蘭会東日本大震災支援募金

平成23年7月より開始した芝蘭会東日本大震災支援募金の現状は次のとおりです。

(平成24年3月30日現在)

571件
7,820,000円

このうち、6,000,000円を平成23年8月12日(金)に、1,749,000円を平成24年3月28日に医学研究科東日本大震災支援基金に寄附いたしました。
※なお、振込手数料70,240円が発生しています。

人事異動

発令年月日	氏名	異動内容
H23.12.31	須山 幹太	辞任 ゲノム医学センターゲノム情報科学准教授より九州大学教授へ
H24.1.1	錦織 宏	採用 東京大学講師より医学教育推進センター准教授へ
H24.1.31	阪井 宏彰	辞職 呼吸器外科講師より尼崎病院呼吸器外科部長へ
H24.2.1	松尾 幸憲	昇任 放射線医学放射線腫瘍学・画像応用治療学助教より同講師へ
H24.2.1	大政 貢	採用 北野病院副部長より器官外科学呼吸器外科学講師へ
H24.2.29	新實 彰男	辞職 内科学呼吸器内科学准教授より名古屋市立大学教授へ
H24.3.1	松田 秀一	採用 九州大学准教授より感覚運動系外科学整形外科学教授へ
H24.3.1	塚本 達雄	採用 (財)田附興風会北野病院腎臓内科より内科学腎臓内科学准教授へ
H24.3.31	臼井 崇	辞職 次世代免疫制御を目指す創薬医学融合拠点特定准教授より臼井医院へ
H24.3.31	林野 泰明	辞職 健康解析学医療疫学特定准教授より天理よろづ相談所病院副部長へ
H24.3.31	村上 善基	辞職 ゲノム医学センター特定准教授より大阪市立大学病院講師へ
H24.3.31	角館 直樹	辞職 健康解析学医療疫学特定講師よりスタンフォード大学客員准教授へ
H24.3.31	森本 尚樹	辞職 感覚運動系外科学形成外科学講師より関西医科大学講師へ
H24.3.31	巽 啓司	辞職 器官外科学婦人科学・産科学講師より大阪医療センター部長へ
H24.3.31	三和 千里	辞職 器官外科学心臓血管外科学講師より岡村記念病院へ
H24.3.31	久米 典昭	辞職 内科学循環器内科学講師より神戸学院大学教授へ
H24.3.31	倉田 二郎	辞職 侵襲反応制御医学麻酔科学講師より東京医科歯科大学講師へ
H24.3.31	藤山 文乃	辞職 高次脳科学高次脳形態学准教授より同志社大学教授へ
H24.3.31	廣田 耕志	辞職 遺伝医学放射線遺伝学准教授より首都大学東京教授へ
H24.3.31	荒井 俊之	辞職 手術部准教授より京都市立病院へ
H24.3.31	藤田 正俊	辞職 人間健康科学系専攻教授より社会福祉法人宇治病院名誉院長へ
H24.4.1	梶谷 宇	採用 帝京大学助教より次世代免疫制御を目指す創薬医学融合拠点特定准教授へ

発令年月日	氏名	異動内容
H24.4.1	本田 哲也	採用 京都大学非常勤講師より次世代免疫制御を目指す創薬医学融合拠点特定准教授へ
H24.4.1	吉富 啓之	採用 京大病院整形外科助教より次世代免疫制御を目指す創薬医学融合拠点特定准教授へ
H24.4.1	田中 智洋	採用 先端医療振興財団主任研究員よりメディカルイノベーションセンター特定准教授へ
H24.4.1	花田 俊勝	採用 オーストリア科学アカデミー分子生物化学研究所博士研究員よりメディカルイノベーションセンター特定准教授へ
H24.4.1	岡本 郁弘	採用 キュリー研究所博士研究員より生体構造医学機能微細形態学特定講師へ
H24.4.1	久木元 伸	採用 サイバネットシステム(株)技術職より政策のための科学特定講師へ
H24.4.1	猪飼 宏	採用 健康管理学医療経済学助教より同分野特定講師へ
H24.4.1	瀬戸口留可	昇任 次世代免疫制御を目指す創薬医学融合拠点特定講師より同特定准教授へ
H24.4.1	廣田 喜一	昇任 侵襲反応制御医学麻酔科学講師より附属病院手術部准教授へ
H24.4.1	平井 豊博	昇任 内科学呼吸器内科学講師より同准教授へ
H24.4.1	溝脇 尚志	昇任 放射線医学放射線腫瘍学・画像応用治療学講師より同准教授へ
H24.4.1	佐藤 幸保	昇任 周産母子診療部助教より器官外科学婦人科学・産科学講師へ
H24.4.1	古田 貴寛	昇任 高次脳科学高次脳形態学助教より同准教授へ
H24.4.1	林 克彦	昇任 生体構造医学機能微細形態学講師より同准教授へ
H24.4.1	園下 将大	昇任 生体制御医学遺伝薬理学講師より同准教授へ
H24.4.1	長尾 美紀	昇任 検査部助教より同講師へ
H24.4.1	田原 康玄	採用 愛媛大学講師よりゲノム医学センターゲノム情報科学准教授へ
H24.4.1	佐々木義輝	採用 理化学研究所研究員より生体制御医学細胞機能制御学准教授へ
H24.4.1	岩井 一宏	採用 大阪大学教授より生体制御医学細胞機能制御学教授へ
H24.4.1	松原 和夫	採用 旭川医科大学病院教授より薬剤部教授へ
H24.4.1	山田 重人	採用 先天異常標本解析センター准教授より人間健康科学系専攻教授へ

会員訃報 (敬称略) 謹んでご冥福をお祈りいたします。

河内 太郎 (昭和5年卒) 平成13年5月25日 逝去	石井 昌三 (昭和22年卒) 平成24年1月1日 逝去	田中 三郎 (昭和32年卒) 平成22年10月20日 逝去
加藤 篤二 (昭和10年卒) 平成24年2月8日 逝去	湊川 学 (昭和22年卒) 平成22年1月18日 逝去	田中 猛夫 (昭和33年卒) 平成24年1月28日 逝去
西村 弘 (昭和11年卒) 平成24年2月27日 逝去	椎名 浄 (昭和23年卒) 平成24年1月21日 逝去	安 教哲 (昭和39年卒) 平成21年1月30日 逝去
野口 圭一 (昭和12年卒) 平成23年12月29日 逝去	島田 恒治 (昭和23年卒) 平成23年10月10日 逝去	福原 資郎 (昭和44年卒) 平成24年4月14日 逝去
根本丘宇司 (昭和14年卒) 平成23年10月14日 逝去	野上 忠孝 (昭和23年卒) 平成24年1月15日 逝去	青木 孝文 (昭和48年卒) 平成24年2月15日 逝去
妹尾左知丸 (昭和15年卒) 平成19年6月22日 逝去	卯西 克美 (昭和24年卒) 平成24年4月21日 逝去	井上 康夫 (教会会員 生理2) 平成24年1月16日 逝去
妹尾 正人 (昭和16年12月卒) 平成24年1月17日 逝去	山腰 茂昭 (昭和24年卒) 平成23年11月5日 逝去	井関 満夫 (教会会員 病理) 平成24年2月 逝去
日下 少栄 (昭和17年卒) 平成23年4月11日 逝去	中島 文夫 (昭和25年卒) 平成24年3月7日 逝去	北澤 知夫 (教会会員 病理) 平成24年1月30日 逝去
堀田 進 (昭和17年卒) 平成23年11月17日 逝去	大島 駿作 (昭和26年卒) 平成23年12月27日 逝去	折井 豊 (教会会員 公衆衛生) 平成23年11月18日 逝去
浦瀬 通夫 (昭和18年卒) 平成23年6月14日 逝去	川崎 正輝 (昭和26年卒) 平成23年3月29日 逝去	有吉 浄治 (教会会員 内科1) 平成22年11月10日 逝去
為森 慶造 (昭和19年卒) 平成24年3月14日 逝去	木村 正也 (昭和28年卒) 平成24年2月24日 逝去	尾辻ますよ (教会会員 内科2) 平成24年2月22日 逝去
亀井 正夫 (昭和20年卒) 平成23年12月21日 逝去	里村 紀作 (昭和28年卒) 平成24年3月28日 逝去	古川 浩 (教会会員 外科) 平成23年7月29日 逝去
洲崎 文彦 (昭和20年卒) 平成23年11月9日 逝去	石本 喜作 (昭和30年卒) 平成23年5月29日 逝去	青野 正男 (教会会員 口外) 平成23年 逝去
林 淵泉 (昭和20年卒) 平成14年2月14日 逝去	澤邊 修一 (昭和32年卒) 平成24年3月7日 逝去	佐井 里衣 (教会会員 小児科) 平成24年1月11日 逝去

芝蘭会事務局
総務課長 山田 均
事務局長 秋山 和
管理課長 松本 悼

本誌(以上2回生) 坂
赤埴未宝、宮崎規晶
田将史(以上3回生) 鶴
真辺 諄、森山太陽、柳
井谷駿史(以上5回生)
前田峻宏、宗宮伸弥、柳
山田直生、畑野翔太郎、
橋本健太郎、中村有輝、
勝島将夫(6回生)

顧問 中尾一和
芝蘭会雑誌部
介、園部 誠、阿部 恵
委員 征良、豊國伸哉、山田圭
委員 斎藤信雄、岩田
委員長 中尾一和

原稿募集

芝蘭会報は、会員の皆様の情報交換・意見発表の場であり、支店活動、クラス会、会員の著書の紹介(自薦・他薦)及び医学・医療等に関するご意見等を寄稿ください。なお、原稿の採用及び掲載時期については、編集委員会で決めさせていただきます。

芝蘭会報 編集委員会

●事務局から●

平成17年4月からの「個人情報保護法」の全面施行により、個人情報の取扱いに厳しい制約が課せられました。つきましては会員の連絡先等のお問い合わせは、必要理由等を明記の上、郵便またはFAXにより事務局までご送付ください。電話でのお問い合わせにはお答え致しかねますのでご了承ください。(FAX 075-752-4015)